

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373600283		
法人名	社会福祉法人サンライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル布袋		
所在地	江南市北山町東212		
自己評価作成日	平成22年1月28日	評価結果市町村受理日	平成22年4月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号		
訪問調査日	平成22年2月19日	評価確定日	平成22年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境作りを心がけ、ご自分で出来ることは、積極的に行って頂いている。入居者の方のストレス解消の対策として、外出行事に力を入れている。月1回よりあい(話し合いへの場)を開き、入居者様の要望、相談の場を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いつも笑顔であたりまえの普通の生活」を実現できるよう、職員は意欲的に取り組んでいる。入居者一人ひとりの希望や状態に応じて、できることはなるべく本人に行ってもらえるように支援し、入居者同士の話し合いの場として、月に1度「よりあい」の時間を設けている。ホームに閉じこもらないよう、散歩や外出の機会を多く設け、入居者の楽しみとなっている。月に2回の外出行事を行っており、行き先は「よりあい」で話し合って決めている。入居者同士の仲が良く、互いの部屋を行き来したり、夕食後は集まってテレビを観たり和気あいあいと過ごしている。状況に応じて、併設のデイサービスセンターの機能も活用している。地域との交流を積極的に進めており、ホームや認知症に対する理解を深める活動に取り組んでいる。また、職員の研修や会議もよく行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を玄関に掲示しており、施設内の会議等においての問題解決や方向性についても理念を基として協議している。	法人の理念に加えホーム独自の理念を職員が話し合ってつくり、家族、地域と連携を図りながらいつも笑顔で当たり前で普通の暮らしを続けられるよう支援している。会議や日常のケアの際には、理念を念頭において実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所独自の理念を玄関に掲示しており、地区の民生委員や区長の方や近隣の方との交流を図るようにしている。	近所の子供たちが遊びに来たり、近くの保育園を訪問したり、中学生の職場体験の受け入れを行っている。また、散歩の際に近所の方と挨拶を交わしたり、野菜を頂くこともある。ボランティアの訪問もあり、在宅介護の家族を対象にホームや認知症の説明、見学会を行うなど、地域との交流を積極的に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での取り組みや利用者様の状況等、報告し、地域の方への理解や協力をお願いしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いはできているがそれをそのままサービス向上に活かすことが困難な場合がある。	会議ではホームの行事、入居者の様子、事故などについて報告している。参加者からは活発に質問や提案が出されており、行事の外出先の情報、離設者への対応の提案や安全対策のアイデアなどをいただき、日々の業務に役立てている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故等の報告はしており、何か相談事があれば対応していただけるよう関係はできている。	外部評価の報告、事故報告のほかに、日頃から何かあれば担当者に報告・相談をしており、協力関係ができています。周辺農道の側溝について、散歩の際に危険なことから市に相談し、ふたを設置してもらった。地域、区長、ホーム、市の連携で実現した。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針に従い、いかなる場合も拘束をしない。	全ての職員が身体拘束の内容とその弊害について研修を通して理解を深めており、どんな時でも拘束をしないという姿勢を持っている。玄関の鍵はかけず、センサーを設置し、離設があった場合には近隣の人が知らせてくれるなどの協力がある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の捉え方が、各職員で相違があるため、学習を行い、虐待防止へと取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の取り組みとして出来なかった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項説明書・契約書等に理解していただくよう取り組んでいる。また、解約にいたっては、ご家族の方と頻りに連絡を取り合っており、十分理解していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のつぶやきを拾ったり、家族の来訪時や電話等で意見・苦情を伝えられたときには、緊急の打ち合わせを行いその案件について協議。検討をしている。	家族会はないが年2回、夏祭り、忘年会で集まる機会を設けている。カンファレンスの際にはゆっくり話を聞いたり、満足度アンケートで要望を聞いている。家族アンケートの意見には、すぐに対応策を取った。毎月の通信で入居者の日常の様子や表情等を伝えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議で、職員の意見や提案を聞いている。	毎月1回のグループホーム会議では、勤務以外の全員が出席し、事前に話し合いたいことのアンケートをとり、議題として職員の提案を取り上げている。所長は個別に職員と話し合う機会を設け、意見や提案を十分に聞くよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話す機会を設け、職場環境の把握に努め働きやすい環境作りを心掛けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針に則り、研修に関する案内を行い、時によっては、反強制的に参加を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホーム(同一地域)での勉強会を月に1度行っており、相互の意見交換会をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、本人の病歴や生活歴を承り、現在おかれている立場を理解するようにしているとともに、問題点を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接で、家族の方や介護されている方と、十分討議する機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状況や状態を勘案し、当施設での支援体制が適切であるかどうか考察している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場が施設に移ったと理解し、出来る事(掃除や食事作りなど)を行って頂くように支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内行事や外出行事に、積極的に声掛けをし参加して頂き、入居者の方の状態の理解を見て頂くと共に、今後の支援方法を検討している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流は殆ど無いが、馴染みの場所の捉え方を、思い出がある場所と考えて、外出行事先に極力取り入れるように努力している。	知人がホームを訪れ部屋で話をしたり、喫茶店に一緒に出かけたり、デイサービスの利用者が立ち寄るなどこれまでの付き合いを続けている。ホームから歩いていける距離の喫茶店や美容院が新しい馴染みの店となっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や歓談をする時に椅子の配置を考えて、交流が図れるようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養や老健へ入所された方への訪問やご家族の方には、電話などを利用し、接触を図っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話で、特に困っている内容を把握したときには、その問題点の解消に努めている。	普段から職員との会話は多く、一緒に作業をしている時や1対1の時に話す言葉を「つぶやき」として記録し、会議の際に話し合っ本人の希望や意向を把握している。毎月入居者の「よりあい」の時間を設け、話し合いの中から希望を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホーム会議を月1回実施(約3~4時間)しており、その会議内で入居者一人ひとりの事例を挙げ協議・検討をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が、入居者の喜怒哀楽をチェックし、個別記録に記入したり、毎日の申し送りなどで把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。	職員の話し合いや個別記録などを参考にし、担当者が入居者の24時間の様子や認知症の経過をまとめている。3カ月に1度のカンファレンスには家族も参加しており、入居者、家族の意見、意向、職員の意見や新しい気づきを反映した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一般入浴が困難な状況になった場合、デイサービスの車椅子入浴などを利用している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、お話ボランティア(毎週1回)やお菓子づくりのボランティア(不定期)の方との交流などで対応している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2名の方が入居者がかかりつけ医の往診を受けている。	協力医の往診が2週間に1回行われているが、入居前のかかりつけ医の往診を受けている方もいる。通院は家族が対応しており、通院に行く前にホームでの様子を書面に記入して、説明をし家族に渡している。受診結果は、家族より聞き、個別記録に記入し情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を行っており、看護師とは日常の問題点などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は定期的にお見舞いも兼ねての状態把握やご家族への連携に努めている。必要に応じて、病院のソーシャルワーカー、施設相談員とも連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の方針で、原則車椅子の生活になった場合などは、家族や介護支援の方に入居前に理解をしていただいております。他施設への入居を勧めることになっている。	重度化した場合における対応に係る指針を定め、入居前に説明し理解していただいております。現在は、自力で歩行できる人が入居しており、状態に応じて他の施設や法人内施設への入居も視野に入れながら、早い段階から家族と話し合っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生法の学習をし、急変時の応急処置や初期対応の方法を、都度確認を職員間で行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練(消防署の協力を得た)を行い、日中時間帯や夜間時間帯を想定し実施をしている。	年に2回避難訓練を行っている。消防署から指導を受け、入居者全員が参加し、消火器の使い方や避難経路の確認を行っている。毎月1回「よりあい」の行事の折にも避難訓練を行い、夜間想定の実施も実施している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方は、職員の言動や態度に非常に敏感であるため、入居者の前では他の入居者の方を含めて会話をしないように心掛けています。	入居者一人ひとりの性格を把握し、プライバシーの確保に努めている。問題にあがった事柄などは、会議で職員同士話し合い、人格の尊重についての周知を図っている。個人情報については事務所に保管し、鍵をかけ情報が洩れないよう配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日、着る洋服の選択や行動に際し、入居者の意思を尊重している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力そのように努力をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が季節の衣服や、理・美容院へ付き添って行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日のうち、夕食の献立は、入居者の希望を聞きながら行っている。準備・片付けは職員と一緒にしている。	献立は入居者の希望を聞き、職員が立て法人内の栄養士にチェックしてもらっている。食材は2~3日分ずつ近くのスーパーまで入居者2~3名と買い物に行っている。食材を切る、炒める、揚げる、煮るといった過程の中で、本人のできる事を手伝ってもらっている。鉄板で焼肉をしたり、鍋を囲んで一緒に食べる等、楽しい食事を心がけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間帯の水分補給は当然ながら、10時・15時の休憩時間を必ずとり、水分の提供や、食事だけで栄養摂取ができない入居者へは、栄養補助を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立を根底とし、必要な部分は職員がお手伝いして実施している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している。	入居者はほぼ自立しているため、トイレでの排泄を基本とし、状態に応じてリハビリパンツやパットを使用している。職員は見守りながら、個々にそって声をかけて誘導している。男女共同のトイレは、シートを敷き安全性に配慮し都度掃除を行い清潔を保っている。便秘気味の入居者には、バナナを食べてもらうなど薬に頼らないようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のある・ないを把握する中で、出ていない方には牛乳や野菜、バナナ等、個々に対応している。出来る時は散歩の連れ出しや声掛けを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に順番が入浴担当に業務上決められておる関係上、午後4時から夕食時間までに行っている。	2日に1回入浴しているが、毎日入浴することも可能である。浴室には暖房がついており、温度差が生じないようにしており、有線からは曲が流れ楽しい雰囲気が入浴することができる。脱衣場には椅子が設けてあり、入浴後ゆったりと、ジュースで水分補給をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自己の判断で自由に休息や仮眠できるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前薬・食後薬の管理を服薬確認表に則って、間違いのない服薬を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の味付けや菜園での花づくり野菜づくりに携わって頂いたり、生活して行くうえでのごみの収集など、役割をもっていただけるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のつばやきから個々に買い物に出掛けたり、よりあいの中で外出行事の行き先を検討している。	天気の良い日にはホーム周辺を散歩したり、近所の人から季節の野菜、花をもらったりしている。食材の買い物にスーパーに行ったり、喫茶店に出かけ好きなものを注文している。入居者の希望を聞き林公園、昭和村等に月2回外出している。年に1度は家族にも参加を募り、1泊旅行か日帰り旅行に行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時や外出時に財布を持参し、実際にお金を使用していただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶(お盆・正月)は、入居者に暑中見舞いや年賀状としてはがきを利用し行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、行事の写真や作品を展示したり、クリスマスツリーや正月飾りや七夕の笹飾りで季節感を体感して頂くようにしている。	廊下には行事で撮った写真や入居者が作った作品が飾られている。入居者同士は非常に仲が良く、居間に自然に集まり、語りあっている。居間から見えるところに畑があり、季節の野菜、草花が育てられ収穫は入居者の楽しみとなっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭・裏庭にベンチを配置したり、予備室を開放し、共有時間を過ごしてもらえるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、今までの生活の中で馴染んでいた物品や好みのものを持参していただいている。	居室の入口には大きな表札があり、室内には馴染みの家具が置かれ、好き好きに写真や作品が飾られ個性的な部屋になっている。10日に1回シーツ交換を行い、ベッドパットは毎日洗濯され、清潔感があり居心地の良い部屋になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人一人の理解する能力を勘案し、混乱を招かないように話しかけたり、失敗を叱責することがないように努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	1. 利用者様個々に配慮した生活環境の形成 2. 利用者様の趣味等に合わせた過ごし方の確立	1・2. 在宅でなくても、その方らしさを維持する事により穏やかに過ごして頂き、認知症進行防止に努めていく	1. 日々のつぶやきから個々の方の要望の傾向を把握し、それに基づいた介護計画を作成し、カンファレンスを開催することにより御家族や施設の役割内容を確認しあい、全職員がその内容を共有し実施していく。 2. 居室環境等、個々の利用者様の入所前の生活を把握しながら、その方らしさを感じることに出来る環境を形成していく。	1年
2	37	1. 利用者様を交えた会合の場の確保	1. 利用者様の自主性や意欲の向上	1. 1ヶ月に1回開催し、のんびりとした雰囲気の中で行い、日々利用者様が感じている事や思っている事、あるいは過去の生活等を聞きながら職員との信頼関係の構築や介護計画への反映に繋げて行く。	1年
3	3	1. 地域の方の認知症への理解よ啓発を促していく	1. 地域の中で、認知症であっても、その方が尊厳を保持しながら生活ができる	1. 運営推進会議を2ヶ月に1回実施し、地域の方への認知症の理解や事業所の取り組み内容をお伝えし、意見交換の場として活用する。地域区長等の役職の方との連携を強化し、地域行事の参加や地域奉仕活動など、地域貢献を深めたり、地区の寄り合い等で認知症やグループホーム紹介の機会を得て実施していく。	1年
4	2	1. 利用者様の楽しみや社会参加の機会の確保	1. 日常生活の中のメリハリや利用者様・御家族同士の交流	1. 1泊旅行では利用者様だけでなく御家族へも参加を促し、利用者様の日常の様子を知って頂いたり、職員との信頼関係の構築に努める。また、利用者様の社会参加の場としての楽しみの1つとして感じて頂けるようにする。又、夏祭りや忘年会では御家族だけではなく地域の方への参加を促し、地域交流の場としても活用していく。	1年

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。